

乳児死亡率と人口比率における日本(新潟)とロシア(ハバロフスク)比較

石上和男¹⁾、柴山純一¹⁾、中林拓己¹⁾、太田早紀¹⁾、眞田悠希¹⁾、Chepel Tatjana²⁾、Senkevich Olga²⁾、Rzjankina Marina²⁾

- 1) 新潟医療福祉大学医療情報管理学科
- 2) 極東医科大学小児科学部

【背景・目的】新潟医療福祉大学は2006年にロシア、ハバロフスクの極東医科大学(以下「FESMU」という)と相互交流協定(MOU)を結んでいる。その一環として平成29年8月21日に本大学教員2人と学生3人でFESMUを訪問し、ロシア(ハバロフスク)における小児保健対策の現状を学ぶ機会を得た。特にロシアにおいては乳児死亡率や新生児死亡率の著しい改善がみられ、わが国の現状と比較し、今後の小児保健対策や少子化対策を考える上で有意義である。

【方法】2003年から2015年のロシア及びハバロフスクの乳児死亡率についてデータを得て、わが国及び新潟県における人口動態統計を比較した。また、同様に2013年から2016年の4年間の新生児死亡率も比較した。

併せて0歳から17歳までの人口比率をハバロフスクと日本、新潟県について2014年から2016年の3年間を比較した。

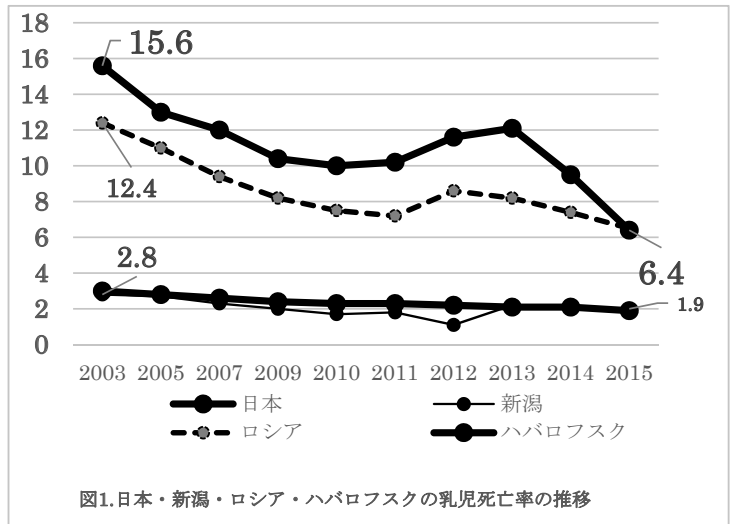
【結果】表1に日本、新潟、ロシア、ハバロフスクの人口、人口密度を比較したものを表した。人口は新潟が227万人、ハバロフスクは133万人であるのに対し、人口密度は新潟が180.44人/km²、ハバロフスクは1.69人/km²と大幅に異なっている。

表1.日本・新潟・ロシア・ハバロフスクの比較

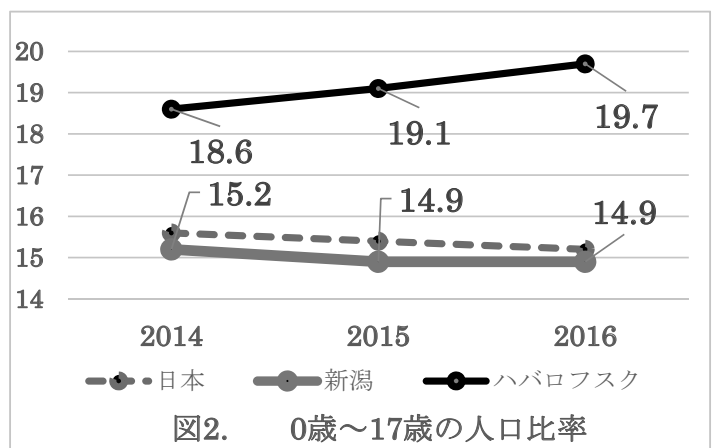
	日本	新潟	ロシア	ハバロフスク
人口	1.27億人	227万人	1.443億人	133万人
土地面積	378.000km ²	12.580km ²	17.075.200km ²	787.633km ²
人口密度	335.98人/km ²	180.44人/km ²	8.45人/km ²	1.69人/km ²

図1は2003年から2015年までの乳児死亡率の推移を日本と新潟、ロシアとハバロフスクを比較したものである。

2003年には、日本が3人に対し、ロシア全体は12.4人、ハバロフスクは15.6人であったものが、2015年のそれは1.9人、6.5人、6.4人になっている。この間ハバロフスクの乳児死亡率の減少が著しい。



また、図2は0歳～17歳の人口比率を示したものであるが、日本及び新潟が減少しているのに対し、ハバロフスクは増加を示している。



【考察】極端に人口密度が少ないハバロフスクにおいて、乳児死亡率の減少や若年者人口の増加がみられていることは、母子保健や小児医療の充実が図られているものと考えられ、今後その背景にあることを分析・検討をする必要があると考える。

【結論】MOUを締結して10年を経過し、相互の地域の違いを理解した上で、一層の交流や研究活動を進めることが必要である。